

健康通信

アデノウイルス結膜炎について



眼科医師

山田 和久

今回は8月に発症が多く、特に子どもがかかりやすいと言われているアデノウイルス結膜炎についてお話しします。

①アデノウイルス結膜炎は2種類

アデノウイルス結膜炎は流行性角結膜炎（いわゆる「はやり目」）と咽頭結膜炎（いわゆる「プール熱」）に分けられます。どちらになるかはウイルスの型によって決まりますが、はやり目の方が白目の充血が強く、目が開かないほどたくさんさらさら

同じような迅速検査キットを用い、白目を綿棒でこすったり、涙を紙に湿らせることで行われます。症状自体は1週間から3週間程度で自然に治ることが多いですが、現在有効な抗ウイルス薬は開発されていません。診断がいたら別の細菌などの混合感染を予防するための抗菌薬や、角膜に濁りがある場合にはステロイド薬の点眼によって治療を行います。

③重要なことは感染力が強いこと

アデノウイルス結膜炎は多くの場合重症化しません。ただ重要なことは、感染力がとても強いことです。プール熱の場合は飛沫感染も起こりえますが、多くの場合は手指を介した接触感染によって伝染します。感染者が手で触れたドアノブやタオルなどに触れることによってウイルスが手に付着し、さらにその手で目や鼻、口などに触れることでウイルスが体内に入り感染します。

潜伏期間は1週間程度と言われて

います。もし1週間以内に目が赤い人と接触することがあって、目の赤みや目やにがたくさん出ることがあった場合、早めに眼科を受診しましょう。なお、学校保健安全法により、はやり目は感染力がなくなったと医師が判断するまで、プール熱は主な症状が消えた後2日経過するまでは学校へ出席できない病気に指定されています。

診断をされたら、アデノウイルス結膜炎を家族内でもうつさない、うつらないようにするために、手で目をこすらない、使用するタオルを分ける、流水でよく手を洗う、お風呂は患者さんが最後に入るなど、注意をすることも重要です。

新型コロナウイルス感染症でも0・8%程度の患者さんに結膜炎が認められると言われています。アデノウイルス結膜炎に限らず、ウイルス感染しないために普段から手指消毒を心がけ、手で顔を触らないように注意をしましょう。

②迅速診断ができ、治療は目薬で行います

らとした目やにが出てきたり、まぶたの裏にブツブツができてきたりします。それに対してプール熱は、はやり目のような眼の症状だけでなく、38度以上の高熱や喉の痛みや腫れなど、全身の症状が出てくるのが特徴です。涙が出てきたり、目の痛みが出てくることも多いですが、かゆみが出てくることは少ないと言われています。

診断は一般的にインフルエンザと